

第3回 都市強靱化プロジェクト推進会議 議事要旨

【日時】令和4年12月16日（火）14時30分～15時15分

【場所】オンライン開催

【出席者】副知事、東京都技監、政策企画局長、都市整備局長 ほか

【議事要旨】

- 『『都市強靱化プロジェクト（仮称）』公表（案）』について
- ・ 大規模な風水害や地震、火山噴火などいつ起こるとも知れない自然災害に対して、様々なリスクを想定して不断に備えを講じていくことが重要である。
- ・ 夏に論点を公表して以降、都民や有識者、事業者の意見を踏まえながら、幅広い分野でこれまでの施策の拡充、新機軸も含めて様々な取組をプロジェクトとして取りまとめた。
- ・ 地震に対する取り組みでは耐震化の支援を新たに開始するなど、活発な議論によって全庁共通の目線で横串を刺しつつ、意欲的にそれぞれの施策の具体化やレベルアップを行った。
- ・ 今回、ハードだけでなくソフト対策もしっかり組み合わせていることが新しい視点だ。今回のプロジェクトに込められた趣旨や基本的な思想を踏まえて、各局の計画等の策定に取り組んでほしい。
- ・ 今回のプロジェクトでは、インフラ整備だけでなくデジタル技術の活用などソフト対策を組み込んで全体像を示したところに1つの特徴がある。また、プロジェクトの今後10年間の事業規模、総事業規模を示しており、画期的なプロジェクトである。
- ・ 3.11の時はスマホの普及率が5割を切っていたが、次に直面する大災害ではスマートフォンが使えるので大きな武器になる。しかし、電波が無いと使えないので、電波が繋がるようにすることが重要である。
- ・ 防災では物理的にどのように守るかという話が多かったが、データに関してはクラウドに分散して守るという視点が入ったことは画期的なこと。
- ・ 本プロジェクトは、首都東京の強靱化に向けて都が主体的に取り組むべき施策の全体像を示し、今後の東京都の強靱化の羅針盤となる将来像である。
- ・ 羅針盤ができて一安心ということではなく、今後も状況の変化や、想像力を働かせることによって新たな課題が出てくる。今後もブラッシュアップを重ねてほしい。
- ・ 具体の執行まで早期に結びつけ、災害への準備をすることで初めて一区切りとなる。

- ・ プロジェクトを推進していくにあたっては都民の理解と協力が不可欠である。来年は関東大震災から100年の節目であり、都民の防災に対する気運が高まる機会でもあるため、こうした契機を通して気運醸成の取組を進めていく。
- ・ インフラ整備は、時間とコストを要する。将来を見据え中長期にわたって安定的また継続的に取り組むためには、これまで以上に事業執行の効率化や迅速化に取り組み、技術職員の人材確保を含めた執行体制の強化を図る必要がある。
- ・ プロジェクトの推進あるいは加速のための仕組みや人材面についての記載は、今後、シントセイなどにも反映させていきたい。個別の施策に関しては「未来の東京戦略」version upにも反映していく。
- ・ 今後はプロジェクトを推進する局面に入る。風水害や地震など5つの危機は、何がいつ起きてもおかしくない課題である。プロジェクトに基づいて、全庁一丸となって強靱化の取組を強化、加速していく必要がある。そのために、来年度のバージョンアップを見据え、推進会議を中心に検討・推進体制を継続していきたい。

「都市強靱化プロジェクト（仮称）」公表（案）を承認